



2008年3月期 決算説明会

成長計画2008—2009

2008年5月14日

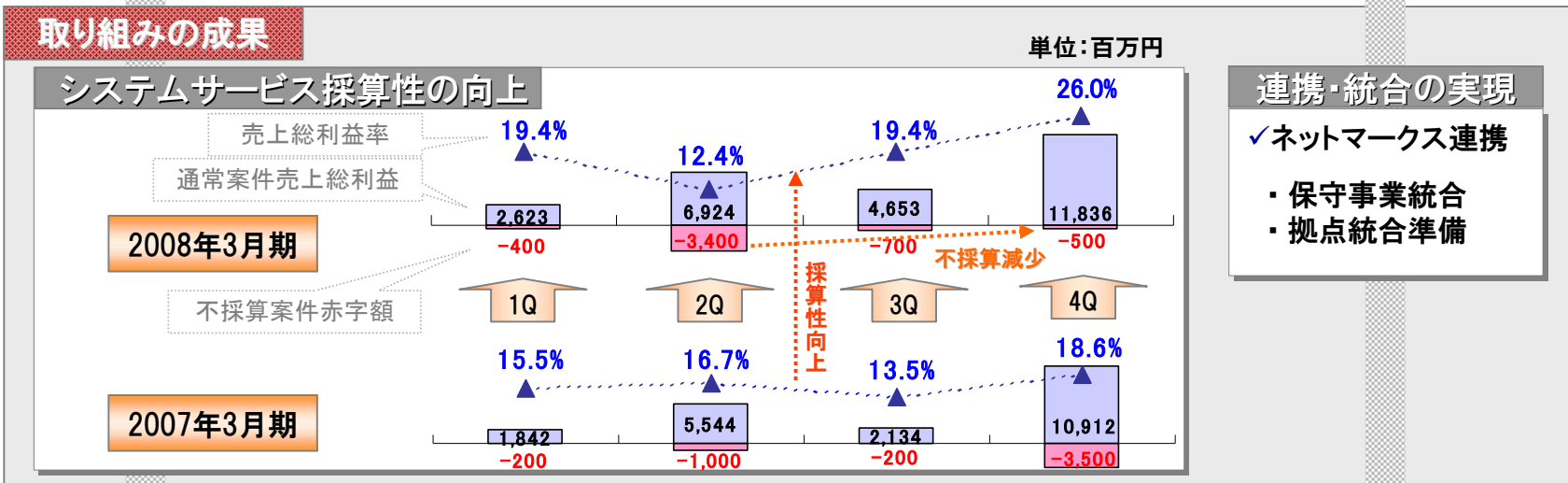
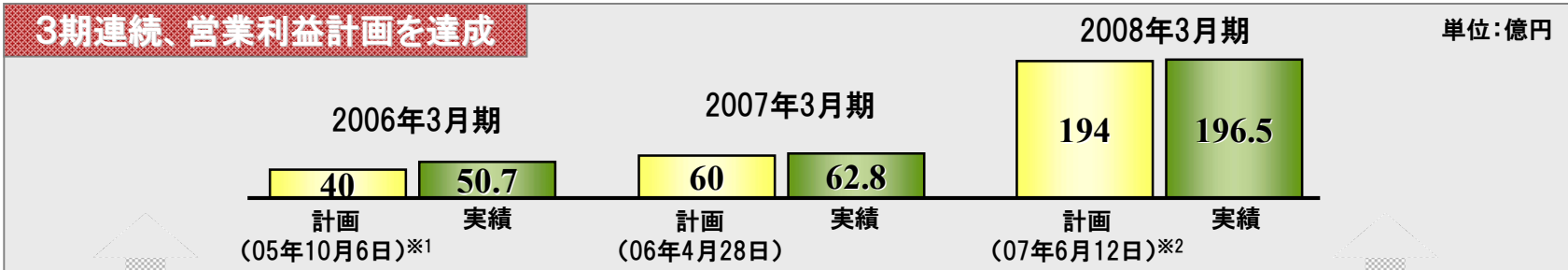
日本ユニシス株式会社
代表取締役社長

靱井 勝人

2007年度の取り組み

「サービス品質の向上」
& 「ICT事業体制の強化」

～重点施策の実施により、特にシステムサービス採算性向上が業績達成に貢献～



連携・統合の実現

- ✓ ネットマークス連携
- ・ 保守事業統合
- ・ 拠点統合準備

重点施策

サービス品質の向上

- ✓ 品質管理体制の強化 (案件審査委員会、行灯システム)
- ✓ システム組織の最適化 (プロジェクト制、要員最適配置)

ICT事業体制の強化

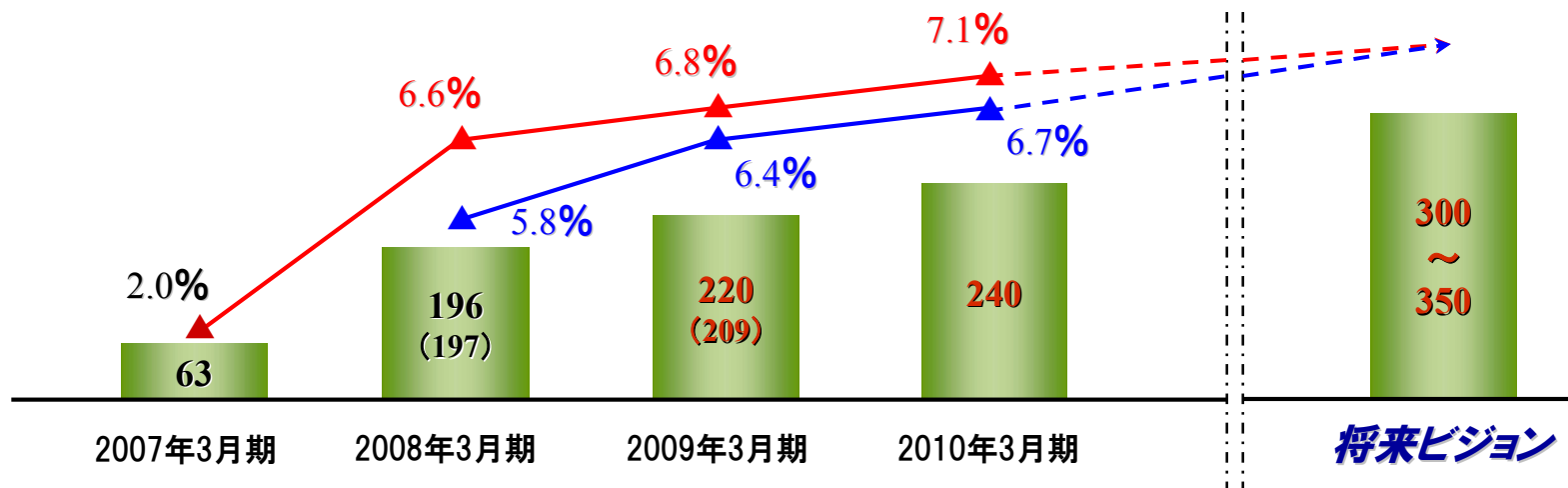
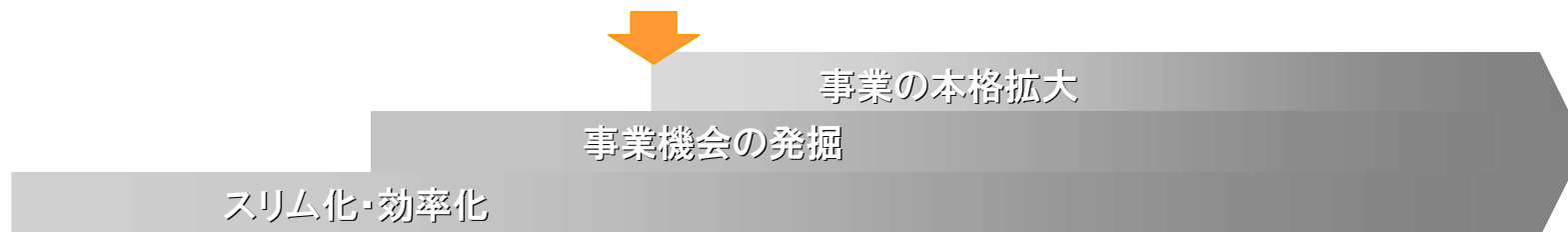
- ✓ ネットマークス連携

成長計画2008－2009の位置づけ

「事業領域拡大への着手」と
「企業体質のさらなる強化」

次なる成長に向けたICT市場での事業領域拡大
& 基盤となる収益力向上のための企業体質のさらなる強化

2009年3月期



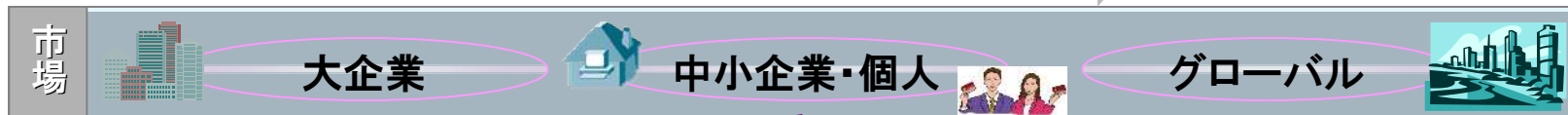
■ : 営業利益(億円)
()内はネットマークス連結の影響を除いた金額

—▲— : 営業利益率(連結)
—▲— : 営業利益率(ネットマークス連結の影響を除く)

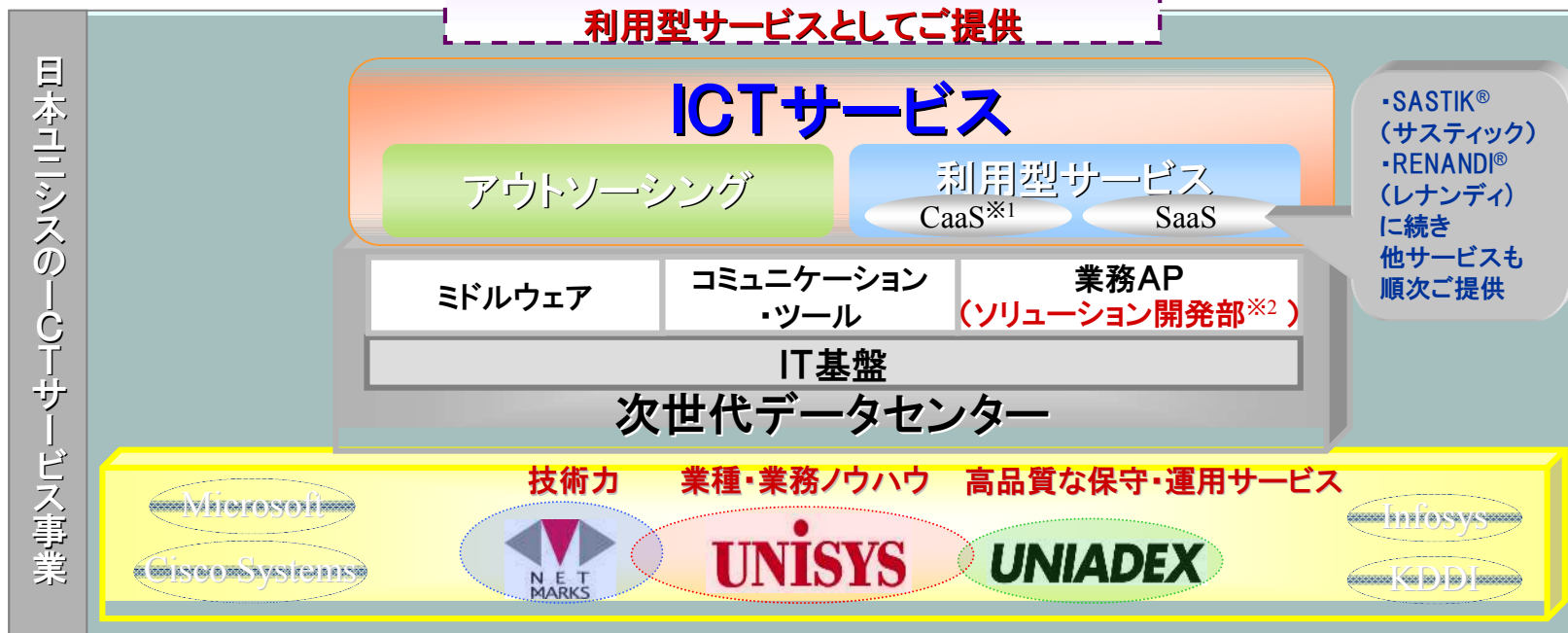
成長計画2008－2009 重点施策① ICT市場での事業領域拡大

「システムインテグレーション事業」に加え、「ICTサービス事業」に参入

- ✓ 企業のIT技術者不足(団塊世代の退職、少子化)
 - ✓ 次世代通信網(NGN)等の普及加速
- 加速化 → 「所有から利用へ」「SIとNIの融合」



ネットワークを介し、必要なサービスをいつでもどこでも、安心安全に利用型サービスとしてご提供



※1 Communication as a Service の略
例えばグローバル・メール・サービスなど

※2 専任組織によるソリューションの強化を実施

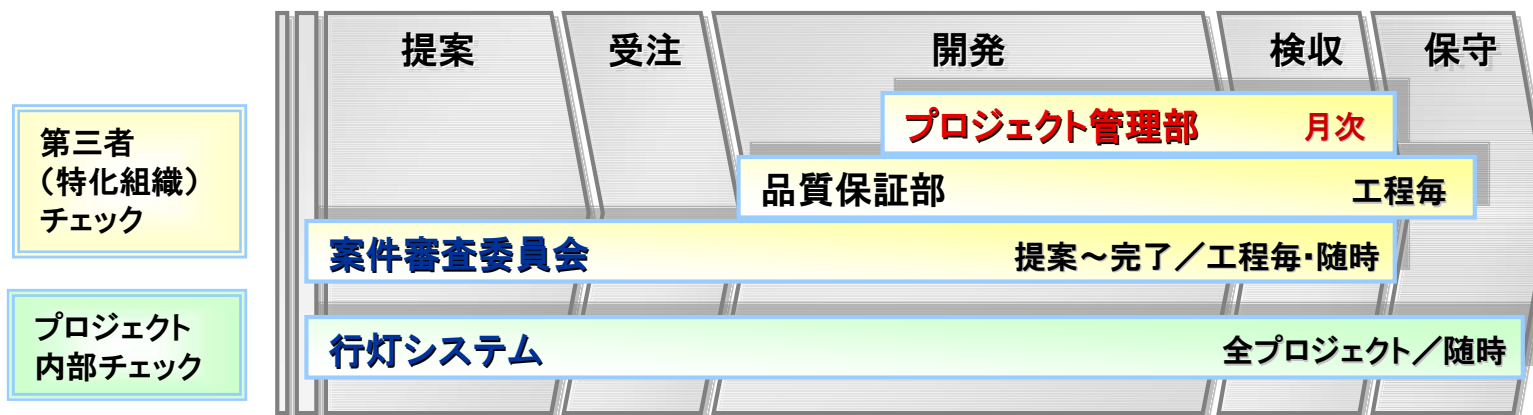
成長計画2008－2009 重点施策②

企業体質の強化

収益力向上のための「企業体質のさらなる強化」に取り組む

サービス品質管理のさらなる強化

- ✓ 行灯システム等の従来施策に加え、専任の第三者(特化組織)によるプロジェクト管理の強化(プロジェクト管理部の新設)⇒不採算案件の減少へ

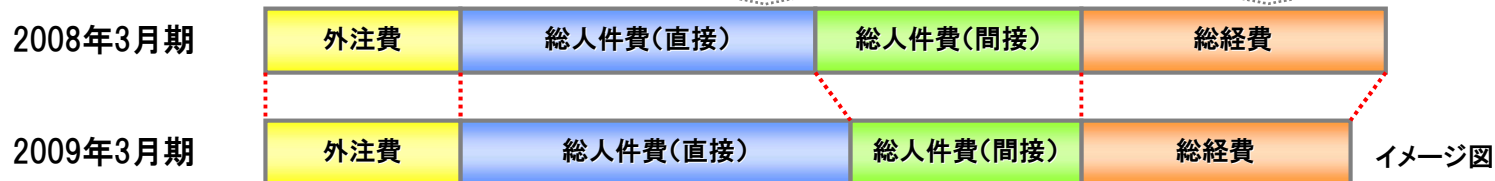


コスト構造のさらなる最適化

- ✓ 人材の有効活用を中心に総コストの低減・圧縮を図る

BPRにより間接業務要員の直接業務シフトを促進

ネットマークス連携等によるコスト低減



U & U

Users & Unisys

UNISYS

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。
また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。